

REPORT 令和4年第1回定例会(2月22日～3月8日)の報告をさせていただきます。

| ▶ 令和4年度 当初予算の主な新事業 | |
|---------------------|------------------------------------|
| 高石駅前広場整備事業 | 55億3800万円 (駅前芝生化、地下駐輪場エレベーター) |
| 高師浜総合運動施設改修事業 | 1億5070万円 (スケボーパーク整備) |
| 市内消費活性化事業 | 1億6708万円(うれしーとキャンペーン等) |
| 南海本線・高師浜線連続立体交差事業 | 4億4793万円(高師浜線高架工事) |
| 南海高師浜線バリアフリー化事業 | 2200万円(伽羅橋駅高師浜駅 エレベーター設置) |
| 高石市リノベーションまちづくり推進事業 | 1億3980万円 |
| 1. 企業等支援事業 | 2800万円(遊休資産などの活用、起業等を希望する人材の発掘と育成) |
| 2. 旧保健センター改修事業 | 6430万円(旧保健センターの整備) |
| 3. 高石駅周辺整備基本設計策定事業 | 3250万円 (高石駅・羽衣駅の周辺エリアの整備) |
| 羽衣駅周辺整備基本計画策定事業 | 1500万円 |
| 南海中央線整備事業 | 3億6900万円(安全対策の向上含めた道路整備) |
| 蓮池公園整備事業 | 3億98,62万円(取石7丁目 都市公園の整備) |

令和4年度は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、市税収入が伸び悩み、依然厳しい財政状況に直面してる中、上記の当初予算が計上されました。また、令和3年度の補正予算では、コロナウイルスワクチン接種、小学校の普通教室の空調の整備、給食室空調整備等を実施する。高石市リノベーションまちづくり費用でコンサル費が高額すぎる事、取石418号線や旧市民会館図書館跡地の開発が進んでいないこと等、コストがかかりすぎる過度な脱炭素計画を控えるべきと苦言を呈しつつ、防災、福祉、経済、駅周辺、教育など概ね妥当な当初予算だと評価しています。

また、(高志会 印丸議員の質疑にて)JR富木駅立体交差化について、市・府・JRの3者で年3回程度勉強会を開催する。さらに、(各会派より)こども医療費助成を高校卒業年度末まで(現在の高石市は中学卒業まで)という要望があり、市長より財政を勘案した上で、できるだけ早い時期に制度設計していくという前向きな答弁を頂きました。

▶ 高石市議会議員定数削減(16人→15人へ)

高石市議会議員の定数を16人→令和5年度の統一地方選より15人に改める条例を賛成多数で可決しました。捻出した財源は、「生活に困窮する世帯」や「子育て世帯」を対象に充当して頂くことを要望しました。

松本よしひろ 市政報告会のご案内

・4月23日(土)10時～ 東羽衣公民館 1F集会室(東羽衣3-15-30)



ゲスト:参議院議員・医師 梅村聡
(小児ワクチンや国会のコロナ対応について説明していただきます。)
体調管理、うがい、手洗い、マスクを着用してご参加下さい。
その時のコロナ情勢により開催が急遽中止となる可能性もあります。
ご来席の際は、**松本 090-8570-7515** までお問合せ下さい。

松本 よしひろ プロフィール

2011年4月初当選、3期目。妻、2男1女の5人家族
高石市第十区子供会会長、高石市第十区奉賛会会長、東羽衣小学校PTA会長、
高石市こども会育成協議会会計、アプラたかいし商店街理事長兼販促部長、
アプラホール実行委員会委員、高石商工会議所青年部所属

NEWS vol.40

高石市から大阪、日本の未来を考える！
高石市議会令和3年度 第1回定例会～第4回定例会報告

松本 よしひろ

高石市東羽衣3丁目15-16 TEL 072-247-8927
高石市議会議員 松本善弘(高志会所属)です。



健全な子供へのワクチン接種

リスクは?

必要があるのか!?

義務なの?

副反応リスクが高いワクチンを小児に打つには極めて慎重な判断を—
高石市では、5歳～11歳の子供を対象とした小児接種を実施するため、
3月初旬に小児ワクチンの接種券を対象世帯に送付しました。



エビデンスが不十分

一般的には、ワクチンには、下記の3点の効果があるといわれています。

感染予防

接種した人が感染しない

発症予防

発症者が減少する

重症化予防

重症患者が減少する入院・死亡等

しかしながらオミクロン株においては、
令和4年2月9日 衆議院予算委員会にて後藤厚生労働大臣の答弁では、
「オミクロン株については5歳から11歳の直後のデータは現時点で存在していない」と話
されている。つまり、ワクチンによる感染予防、発症予防、重症化予防の3点の効果は現時点で
は証明されていない。厚労省が示しているデータは、新型コロナワクチンの効果については、そも
そもオミクロン株が出現する前のデルタ株以前のデータであり、実際にオミクロン株での検
証はできていない。

また、2月25日の参議院での質疑にて、後藤厚生労働大臣の答弁では、「発症予防効果や重症
予防効果のエビデンスが十分ではないため、努力義務規定をかけることはしない」と努力
義務規定を外している。

そもそも、日本でもワクチン接種は8割(3月3日現在)を超えているのに、令和4年
1月から感染が急拡大したことから、ワクチンの感染効果が限定的だといえるだろう。

また、ニューヨーク州の保健当局では、5歳から11歳の子どもでは感染を防ぐ効果が1か月で
大幅に低下するとして調査結果を公開しました。(3月1日朝日新聞)



健康なこどもの重症化は極めて稀

第70回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議(令和4年2月18日開催)の※資料1では

新型コロナウイルス第6波の
(R3年12月17日~R4年2月17日時点)

**19歳以下の重症化率は
0.00%と低い。**

また、第69回
大阪府新型コロナウイルス対策
本部会議(R4年2月16日開催)では
大阪府新型コロナウイルス対策本部会議
専門家座長 朝野和典氏が

年代別重症化率及び死亡率の推移(陽性判明日別)(令和4年2月17日時点)

| 重症化率 | 第一波 (R2.1/29-6/13) | | | 第二波 (R2.6/14-10/9) | | | 第三波 (R2.10/10-R3.2/28) | | | 第四波 (R3.3/1-6/20) | | | 第五波 (R3.6/21-12/16) | | | 第六波 (2/17時点) (R3.12/17~) | | |
|--------|--------------------|-------|-------|--------------------|-------|------|------------------------|-------|------|-------------------|-------|------|---------------------|-------|------|--------------------------|-------|-------|
| | 新規陽性者数 | 重症化者数 | 重症化率 | 新規陽性者数 | 重症化者数 | 重症化率 | 新規陽性者数 | 重症化者数 | 重症化率 | 新規陽性者数 | 重症化者数 | 重症化率 | 新規陽性者数 | 重症化者数 | 重症化率 | 新規陽性者数 | 重症化者数 | 重症化率 |
| 19歳以下 | 79 | 1 | 1.3% | 839 | 0 | 0.0% | 3704 | 1 | 0.0% | 6629 | 2 | 0.0% | 22424 | 3 | 0.0% | 100512 | 5 | 0.00% |
| 20-30代 | 654 | 7 | 1.1% | 4420 | 3 | 0.1% | 11733 | 16 | 0.1% | 19778 | 61 | 0.3% | 44077 | 99 | 0.2% | 113650 | 6 | 0.01% |
| 40-50代 | 564 | 36 | 6.4% | 2207 | 52 | 2.4% | 9845 | 184 | 1.9% | 15845 | 494 | 3.1% | 26463 | 554 | 2.1% | 84681 | 62 | 0.07% |
| 60代以上 | 489 | 103 | 21.1% | 1805 | 177 | 9.8% | 10782 | 947 | 8.8% | 12950 | 1200 | 9.3% | 7821 | 368 | 4.7% | 48645 | 358 | 0.74% |
| 総計 | 1786 | 147 | 8.2% | 9271 | 232 | 2.5% | 36064 | 1148 | 3.2% | 55318 | 1757 | 3.2% | 100891 | 1024 | 1.0% | 348470 | 431 | 0.12% |

| 死亡率 | 第一波 (R2.1/29-6/13) | | | 第二波 (R2.6/14-10/9) | | | 第三波 (R2.10/10-R3.2/28) | | | 第四波 (R3.3/1-6/20) | | | 第五波 (R3.6/21-12/16) | | | 第六波 (2/17時点) (R3.12/17~) | | |
|--------|--------------------|------|-------|--------------------|------|------|------------------------|------|------|-------------------|------|-------|---------------------|------|------|--------------------------|------|-------|
| | 新規陽性者数 | 死亡者数 | 死亡率 | 新規陽性者数 | 死亡者数 | 死亡率 | 新規陽性者数 | 死亡者数 | 死亡率 | 新規陽性者数 | 死亡者数 | 死亡率 | 新規陽性者数 | 死亡者数 | 死亡率 | 新規陽性者数 | 死亡者数 | 死亡率 |
| 19歳以下 | 79 | 0 | 0.0% | 839 | 0 | 0.0% | 3704 | 0 | 0.0% | 6629 | 0 | 0.0% | 22424 | 1 | 0.0% | 100512 | 0 | 0.00% |
| 20-30代 | 654 | 0 | 0.0% | 4420 | 0 | 0.0% | 11733 | 1 | 0.0% | 19778 | 7 | 0.0% | 44077 | 4 | 0.0% | 113650 | 0 | 0.00% |
| 40-50代 | 564 | 6 | 1.1% | 2207 | 4 | 0.2% | 9845 | 17 | 0.2% | 15845 | 88 | 0.6% | 26464 | 63 | 0.2% | 84681 | 13 | 0.02% |
| 60代以上 | 489 | 81 | 16.6% | 1805 | 138 | 7.6% | 10782 | 920 | 8.5% | 12950 | 1444 | 11.2% | 7820 | 290 | 3.7% | 48645 | 432 | 0.89% |
| 総計 | 1786 | 87 | 4.9% | 9271 | 142 | 1.5% | 36064 | 938 | 2.6% | 55318 | 1539 | 2.8% | 100891 | 358 | 0.4% | 348470 | 445 | 0.13% |

※死亡率: 新規陽性者数に占める死亡者数の割合。
※重症化率及び死亡率は2月17日判明日時点までの重症化及び死亡者数に基づき、今後、重症化及び死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

※資料1

「オミクロン株は若年層にとって、
軽症で推移する季節性
インフルエンザ並みの感染症であり、
高齢者や基礎疾患のある人にとっては、
季節性インフルエンザよりも
重症化しやすい感染症である。
小児にとっては、インフルエンザよりも
脳症の発症がないため、
インフルエンザの方が重症率が高い
といえる。」と発言されました。



つまり、小児にとっては、5類感染症の
インフルエンザよりも、重症化しに
くいとの発言です。そもそも、オミクロ
ン株での重症化する可能性は極めて
低いのに、ワクチンを打つ必要が
あるのか?



副反応リスクが高い

[ワクチン副反応疑い報告] 接種回数:2億365万回 / 死亡:1474人 / 重篤副反応:6454人

- 12-19歳 → ・重篤副反応:398人 ・死亡:5人
- 20-29歳 → ・重篤副反応:721人 ・死亡:26人
- 30-39歳 → ・重篤副反応:758人 ・死亡:28人
- 12-39歳合計 → ・重篤副反応:1877人 ・死亡:59人となっている。



一年代別ワクチン副反応疑い報告とコロナによる死亡者について

| | 累積コロナ死亡者 (令和2年2月13日~) | ワクチン接種後(令和3年2月17日~) | |
|-------|--------------------------|---------------------|-----|
| | | 重篤な副反応 | 死亡 |
| 10台未満 | 0 | 0 | 0 |
| 10代 | 4 | 398 | 5 |
| 20代 | 29 | 721 | 26 |
| 30代 | 87 | 758 | 28 |
| 40代 | 303 | 929 | 47 |
| 50代 | 844 | 739 | 74 |
| 60代 | 1661 | 629 | 90 |
| 70代 | 4326 | 904 | 255 |
| 80代以上 | 10988 | 1370 | 593 |

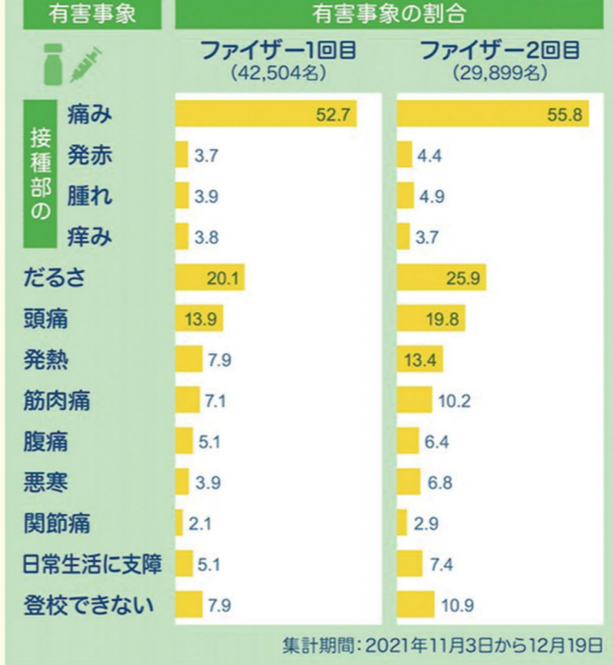
第76回厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会(2月18日開催)資料より

ワクチンをうつことによって、
後に重篤副反応を示す方や
死亡者が多数出ている。
しかしながら、厚労省は
一人として因果関係を
認めてはいない。

第74回厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会
(令和3年12月24日開催) 資料を確認する限り、

[心筋炎・心膜炎疑い報告(19歳以下)] 男性:156人 / 女性:19人 合計:175人
(内訳:ファイザー / 男性:101人 女性:15人 合計116人 ・モデルナ / 男性:55人 女性:4人 合計 59人)

米国による子ども(5歳から11歳)の mRNAワクチンの副反応調査(%)



(←左記参照)
米国の小児ワクチンでは、
日常生活に支障をきたす小児が7.4%
登校できない児童が10.9%
小児ワクチンを打って、重篤な副反応が起き、
日常生活に支障をきたしたり、
登校できない子供が多数出ている。
ファイザーワクチン2回の接種で、

日常生活に
支障をきたす
小児が

7.4%

登校できない
児童が

10.9%

もいることは衝撃だと感じる。

出典元 <https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/70/wr/mm705152a1.htm>



国や市町村はワクチンの情報をもっと市民に伝えるべき

厚労省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である」と記載している。
つまり、厚労省はワクチンの安全性を確認する手続きを省略して、小児にワクチン接種を押し進めている状況であり、時期尚早と考える。その理由は、上記に記載した3点です。

- エビデンスが十分ではない
- 子供の重症化は極めて稀である
- 副反応リスクが高い



この背景には、厚労省や政府が出している資料を冷静になって分析し、接種後の副反応や後遺症の事実、国会議員や近隣の首長、議員有志からの情報、医師の意見等も踏まえ、書かせて頂いています。
世の中では、接種のメリットや安全性をことさらに強調する情報が、テレビやインターネットのニュース等で強調されがちだが、ワクチンのリスクは積極的に報道されているとはいえない。
だからこそ、国や市町村からの都合のよい情報だけでなく、都合の悪い情報も市民に伝えて、子供のご両親がワクチンのメリットとデメリットを十分検証できる情報を提供することを要望しました。もし、国や厚労省のワクチン情報が十分でないものであったならば、皆様の大切なお子様が大きな被害を負うことになるかもしれないからです。

子供を守るのは、大人なのです。

市民は自ら情報を取りに行くこと、新聞や本など様々な情報に触れ、ワクチン接種のメリットとデメリットを正しく理解して、一度親子さんとワンクッションをおいて考えて頂いて大切なお子様にワクチンを打つかどうかの適切な判断にする材料にしてもらえたら幸いです。